

2026年3月期 決算補足資料

株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所プライム市場：9037



- I. 2026年3月期 決算概況
- II. 2027年3月期 計画
- III. 2026年3月期 決算実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

I . 2026年3月期決算概況

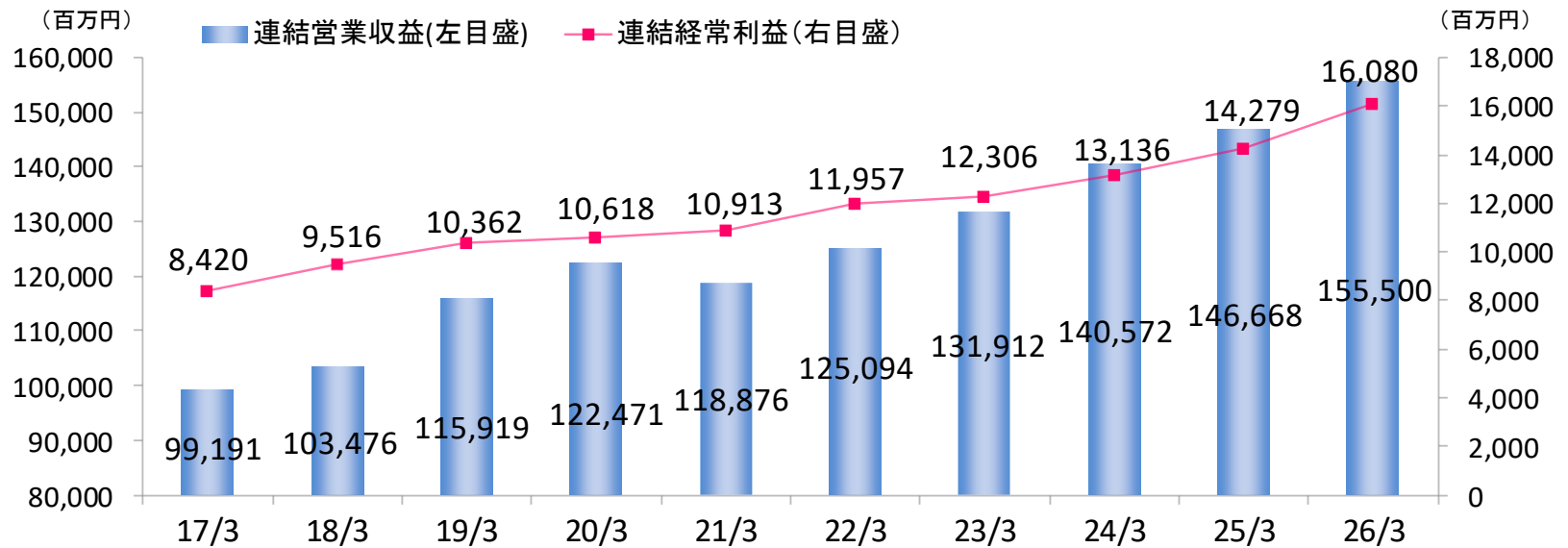
I-1. 2026年3月期の業績

営業収益は、1,555億 0百万円 (前年同期比 +6.0%)

経常利益は、160億 80百万円 (前年同期比 +12.6%) の増収増益

項目	対前期比	対計画比	対前期比増減要因
営業収益 155,500百万円	+8,832百万円 (+6.0%)	+2,500百万円 (+1.6%)	・物流センター事業での運営の充実と新規稼働 ・貨物自動車運送事業での運賃改定と貸切便増加 ・M&A効果
営業利益 14,761百万円	+1,547百万円 (+11.7%)	+861百万円 (+6.2%)	・物流センター事業で生産性向上及び収益増加 ・貨物自動車運送事業で収益増加 ・M&A効果
経常利益 16,080百万円	+1,801百万円 (+12.6%)	+1,080百万円 (+7.2%)	
親会社株主に帰属 する当期純利益 10,720百万円	+1,788百万円 (+20.0%)	+1,320百万円 (+14.0%)	・特別利益の発生 固定資産売却益

I-2. 業績推移



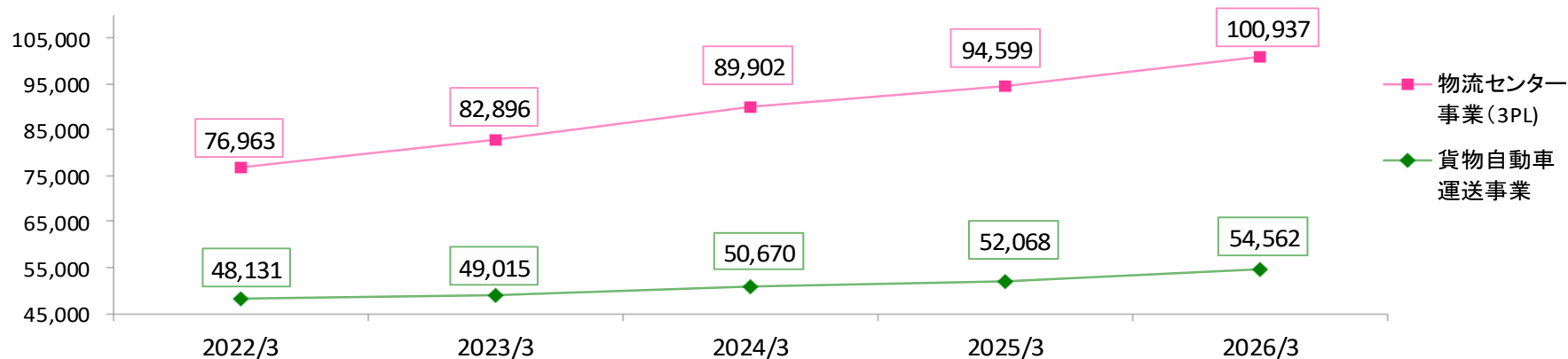
連結業績	
営業収益	増 収 (過去最高)
営業利益	増 益 (過去最高)
経常利益	増 益 (過去最高)
親会社株主に帰属する当期純利益	増 益 (過去最高)

I-3. セグメント情報の推移

(百万円)

		2022/3 (構成比:%)	2023/3 (構成比:%)	2024/3 (構成比:%)	2025/3 (構成比:%)	2026/3 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	76,963 (61.5%)	82,896 (62.8%)	89,902 (64.0%)	94,599 (64.5%)	100,937 (64.9%)	+6,337 (+6.7%)
	営業利益	9,310	10,015	10,641	11,734	13,068	+1,333
貨物自動車 運送事業	営業収益	48,131 (38.5%)	49,015 (37.2%)	50,670 (36.0%)	52,068 (35.5%)	54,562 (35.1%)	+2,494 (+4.8%)
	営業利益	1,798	1,529	1,923	1,457	1,712	+254

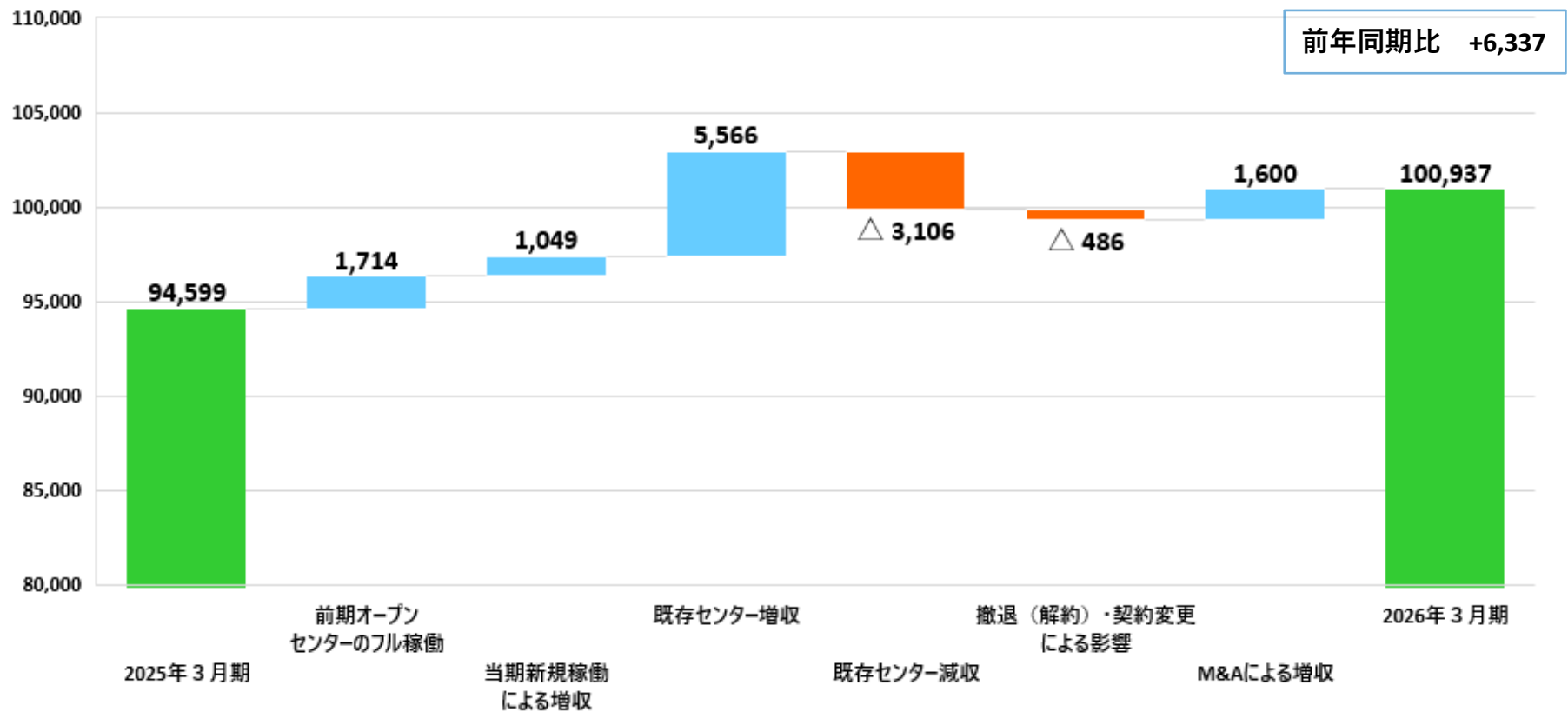
営業収益の推移



I-4. 物流センター事業(3PL)の概況

営業収益の状況

(百万円)



I-5. 物流センター—事業の稼働状況

●新規受託及び稼働

取扱品目	前期受託 未稼働	当期 受託	稼働	当期 未稼働	memo
フード		3社	3社	-	
アパレル		1社	1社	-	
ホームケア		6社	6社	-	
メディカル/ヘルスケア	1社	4社	4社	1社	
インダストリー		0社	0社	-	
その他		1社	1社	-	
計	1社	15社	15社	1社	

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件



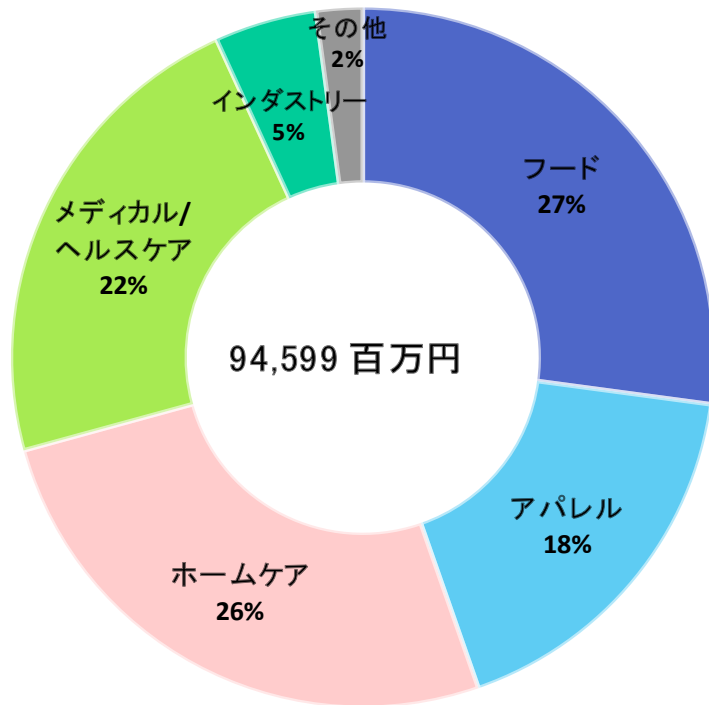
●物流センター数

2026年3月31日現在

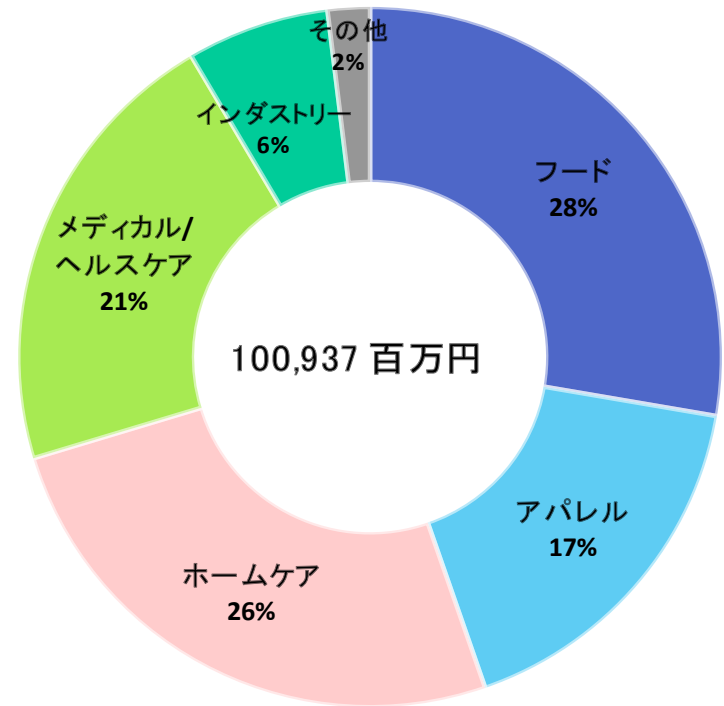
自社センター	62	(623,510m ²)
借用センター	132	(1,037,375m ²)
計	194	(1,660,884m ²)

I-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高

2025年3月期



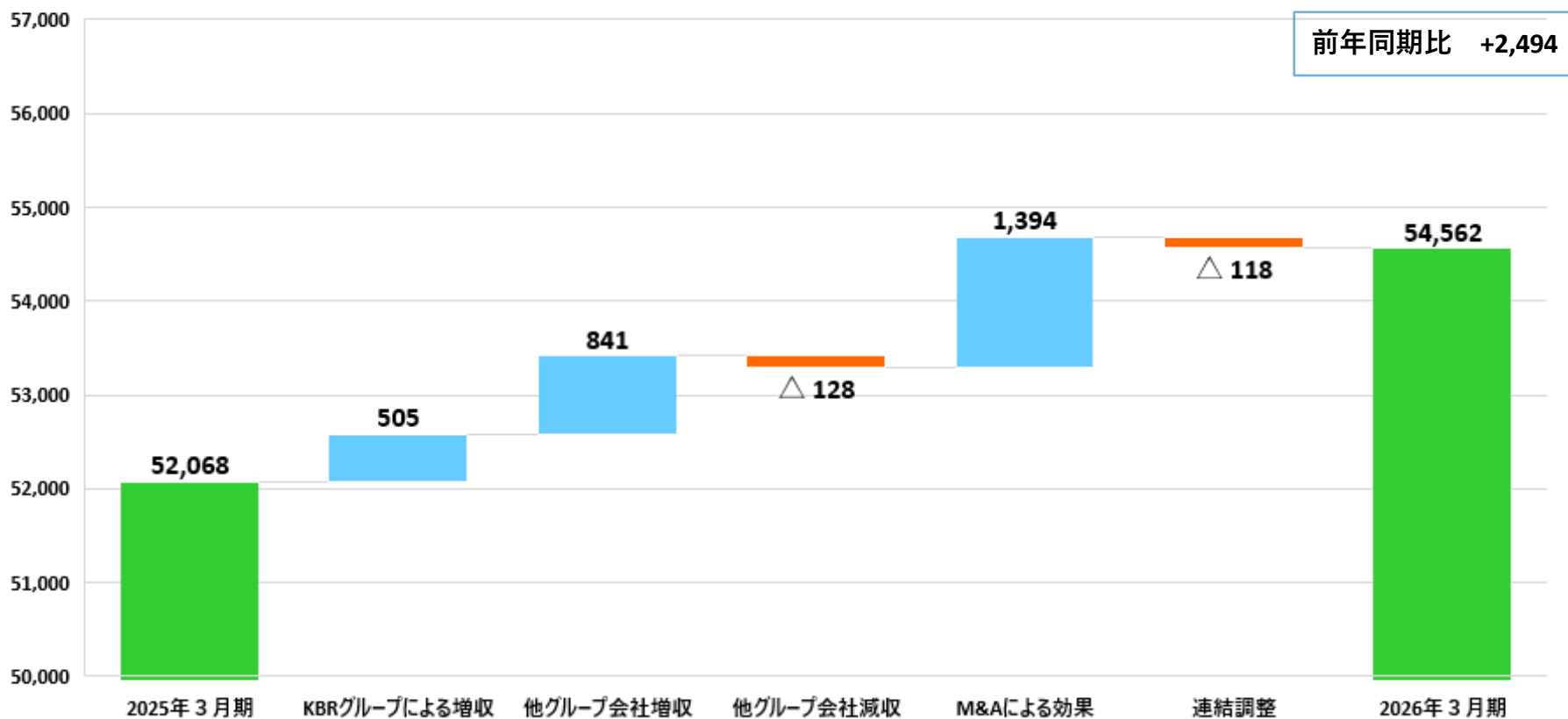
2026年3月期



I-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況

(百万円)



※KBRグループとは、近物レックス(株)とその子会社4社です。
(都運輸(株)、三重近物通運(株)、茨城県貨物自動車運送(株)、(株)エービーエクスプレス)

Ⅱ. 2027年3月期計画

Ⅱ-1. 2027年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	165,500	+10,000 (+6.4%)
営業利益	16,300	+1,538 (+10.4%)
経常利益	17,200	+1,119 (+7.0%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	10,800	+79 (+0.7%)
設備計画	12,000	***

(百万円)

セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	108,500	+7,562	(+7.5%)
	営業利益	13,770	+701	(+5.4%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	57,000	+2,437	(+4.5%)
	営業利益	2,530	+817	(+47.7%)

Ⅱ-2 . 経営指標

	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	98.48	110.64	120.13	144.83	145.91
自己資本当期純利益率(%) 〔ROE〕	9.9	10.3	10.3	11.4	10.6
営業収益経常利益率(%)	9.3	9.3	9.7	10.3	10.4

※自己資本当期純利益率(ROE)は、10%以上を継続的に達成することを目指してまいります。

※当社は2024年10月1日付で1株につき4株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算出しております。

● 1株当たり配当金・配当性向 (単位：円、%)

■ 期末配当 ■ 中間配当 ● 配当性向

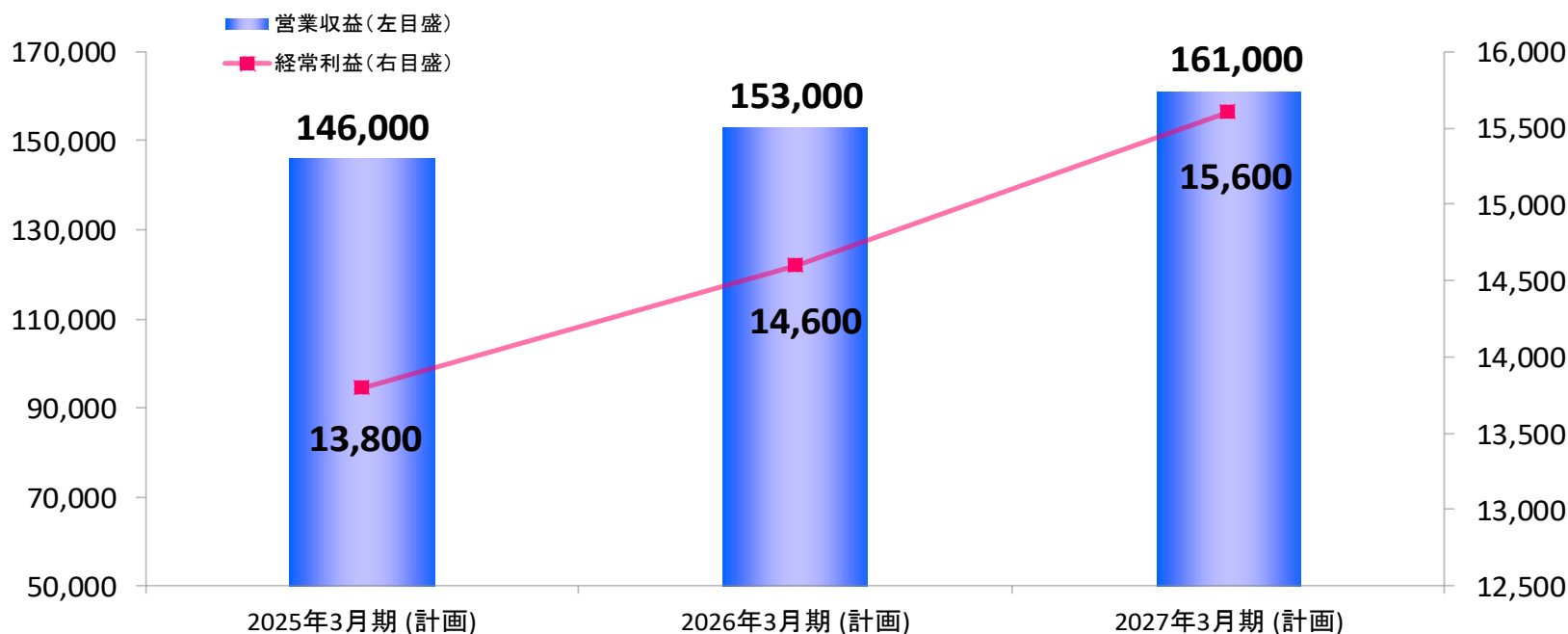


※当社は2015年9月1日付で、普通株式1株につき2株の割合にて株式分割を行っております。また、2024年10月1日付で、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。そのため、2006年3月期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して1株当たり配当金を算出しております。

Ⅱ-3. 中期経営計画

(百万円)

	2025年3月期 (計画)	2026年3月期 (計画)	2027年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	146,000	153,000	161,000
経常利益	13,800	14,600	15,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,600	9,050	9,650
1株当たり当期純利益	114.56	120.55	128.55
営業収益経常利益率	9.5%	9.5%	9.7%
設備投資計画	120億円	120億円	120億円



※2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。
上記中期経営計画の1株当たり当期純利益は当該株式分割の影響を考慮しております。

Ⅱ-4. 今後の取り組み

1. 3PL事業を軸とする事業展開

- ・積極的な設備投資
- ・物流センターのDX化、省人化
- ・EC物流の拡大（ラストワンマイル）と自社配送の取り組み

2. 3PL事業とグループ会社の融合

- ・近物レックスの貨物ターミナルを物流センター化
- ・3PL配送のグループシナジーを強化

3. 新規顧客獲得に向けた取り組み

- ・3PL新規受託件数年間目標15社
- ・国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開

4. 貨物自動車運送事業の取り組み

- ・物量増加の取り組み
- ・貨物ターミナルの生産性向上
- ・労働環境改善、運賃是正の取り組み

5. M&Aの継続

- ・3PL事業、貨物自動車運送事業においてシナジー効果を創出できるM&Aの取り組み

6. ESGの取り組み強化

- ・CO₂排出量削減、SDGsの推進



Ⅲ. 2026年3月期 決算実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

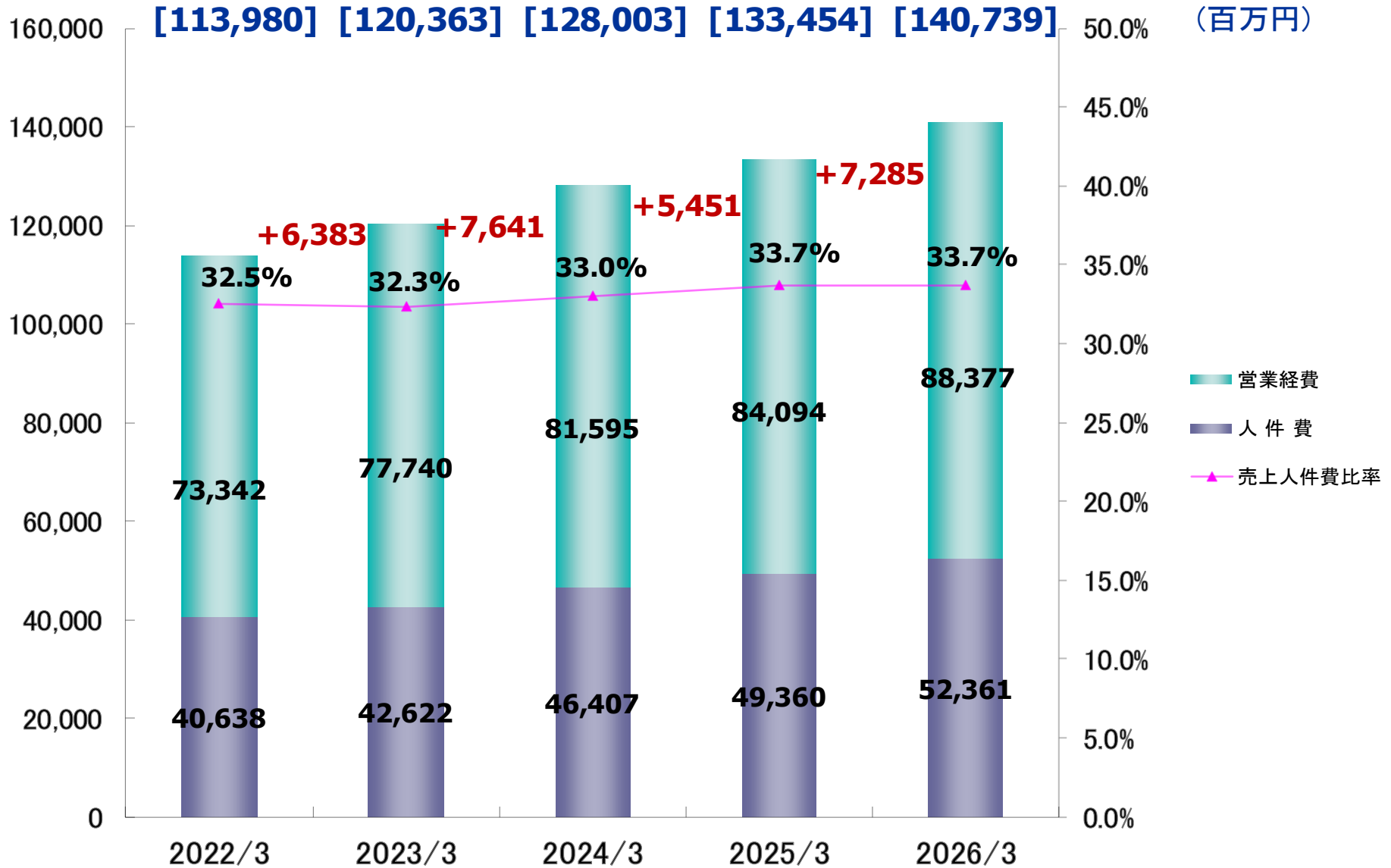
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
営業収益	37,392	+1,647 (+4.6%)	38,031	+1,579 (+4.3%)	40,657	+1,875 (+4.8%)	39,418	+3,729 (+10.4%)
営業利益	3,594	+315 (+9.6%)	3,565	+395 (+12.5%)	4,456	+289 (+7.0%)	3,144	+546 (+21.0%)
経常利益	3,943	+375 (+10.5%)	3,782	+392 (+11.6%)	4,588	+275 (+6.4%)	3,767	+758 (+25.2%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,489	+336 (+15.6%)	2,342	+211 (+9.9%)	2,807	+211 (+8.2%)	3,081	+1,029 (+50.2%)

Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	24,175	+1,412 (+6.2%)	24,663	+1,073 (+4.6%)	26,197	+1,042 (+4.1%)	25,900	+2,809 (+12.2%)
	営業利益	3,277	+403 (+14.0%)	3,179	+404 (+14.6%)	3,782	+139 (+3.8%)	2,828	+386 (+15.8%)
貨物自動車運送	営業収益	13,217	+235 (+1.8%)	13,367	+505 (+3.9%)	14,459	+833 (+6.1%)	13,518	+919 (+7.3%)
	営業利益	306	△96 (△23.9%)	423	+39 (+10.2%)	665	+145 (+28.0%)	317	+165 (+109.7%)

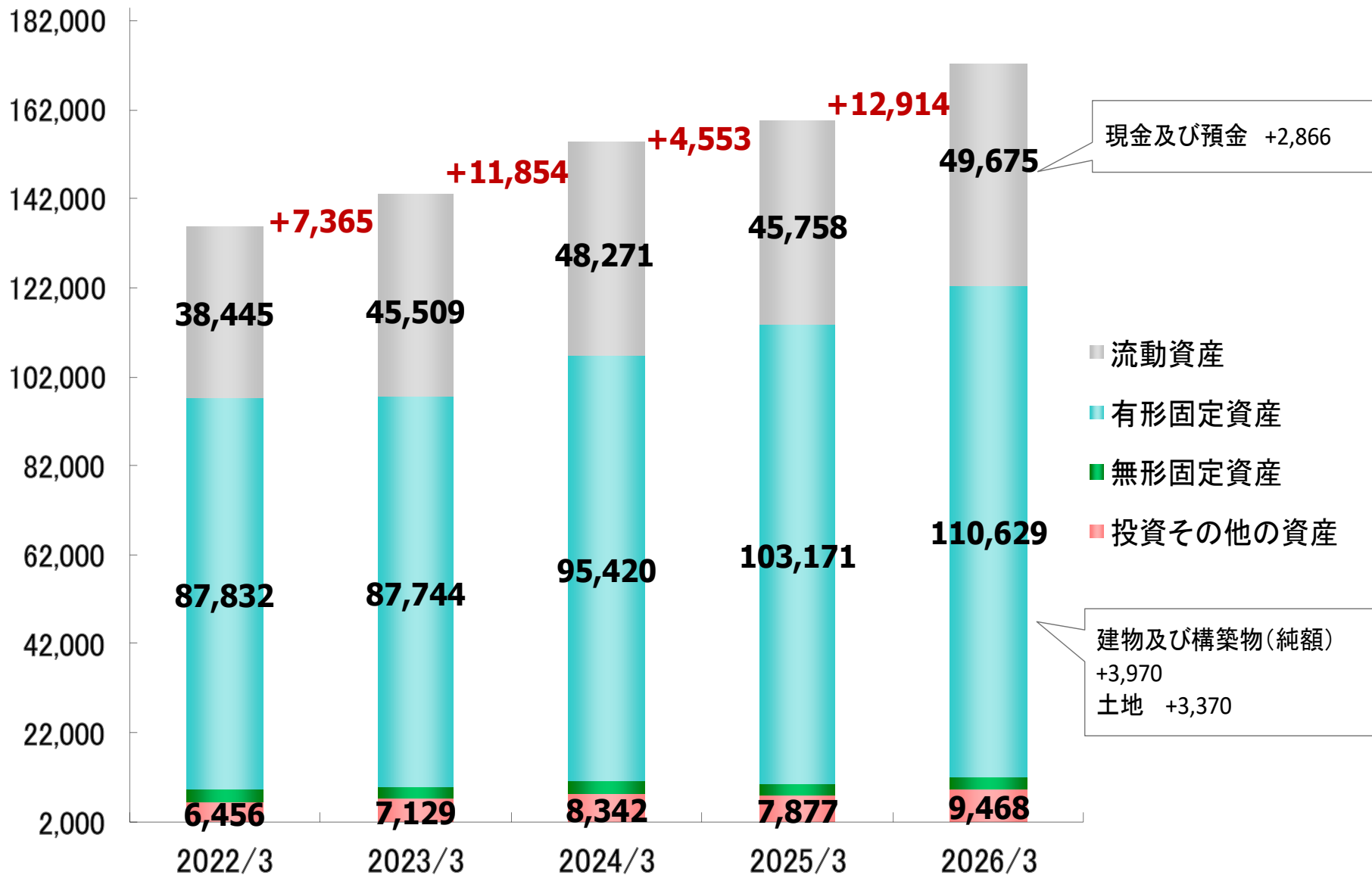
Ⅲ-3. 経費・人件費



Ⅲ-4. 貸借対照表<資産>

[135,672] [143,038] [154,892] [159,446] [172,360]

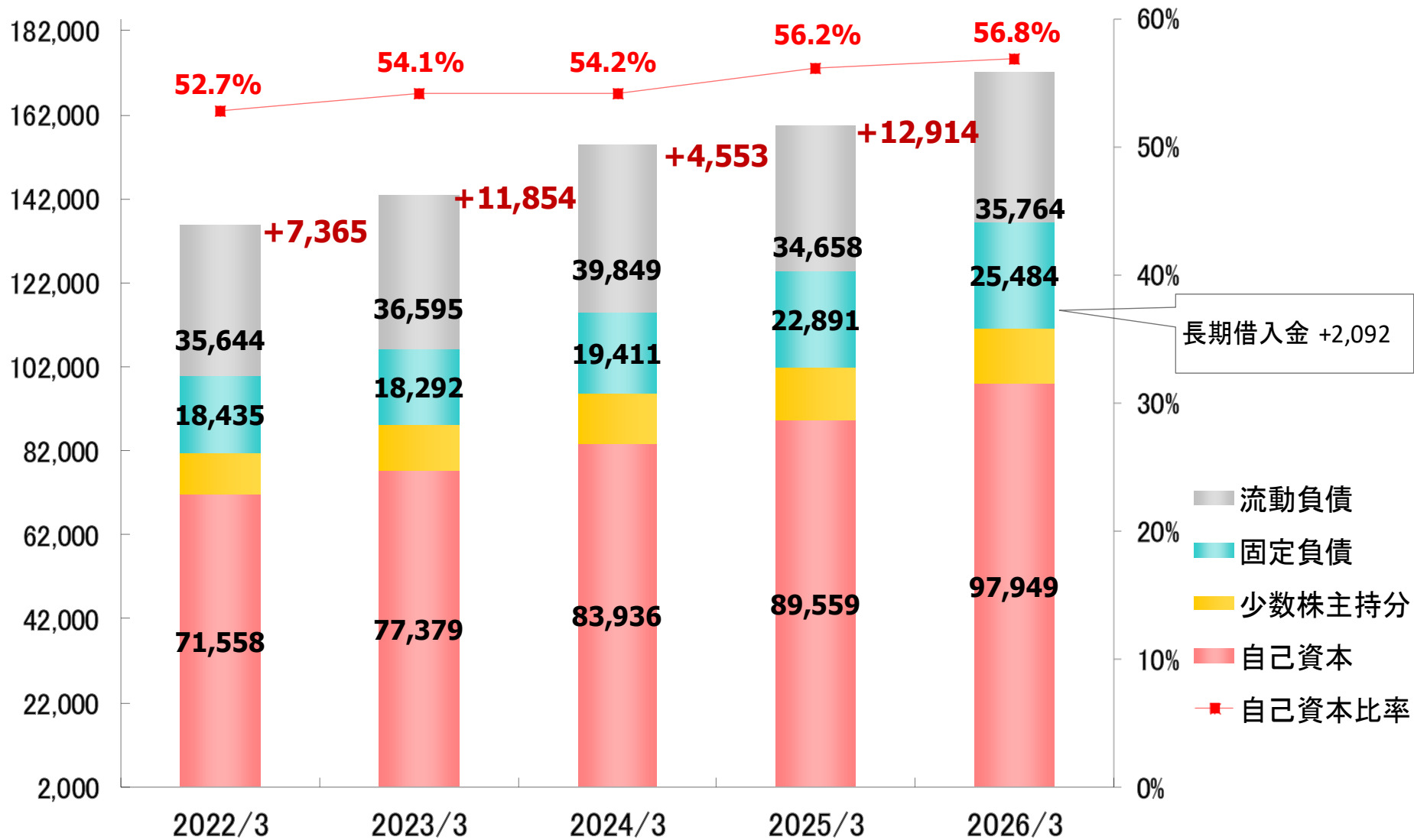
(連結:百万円)



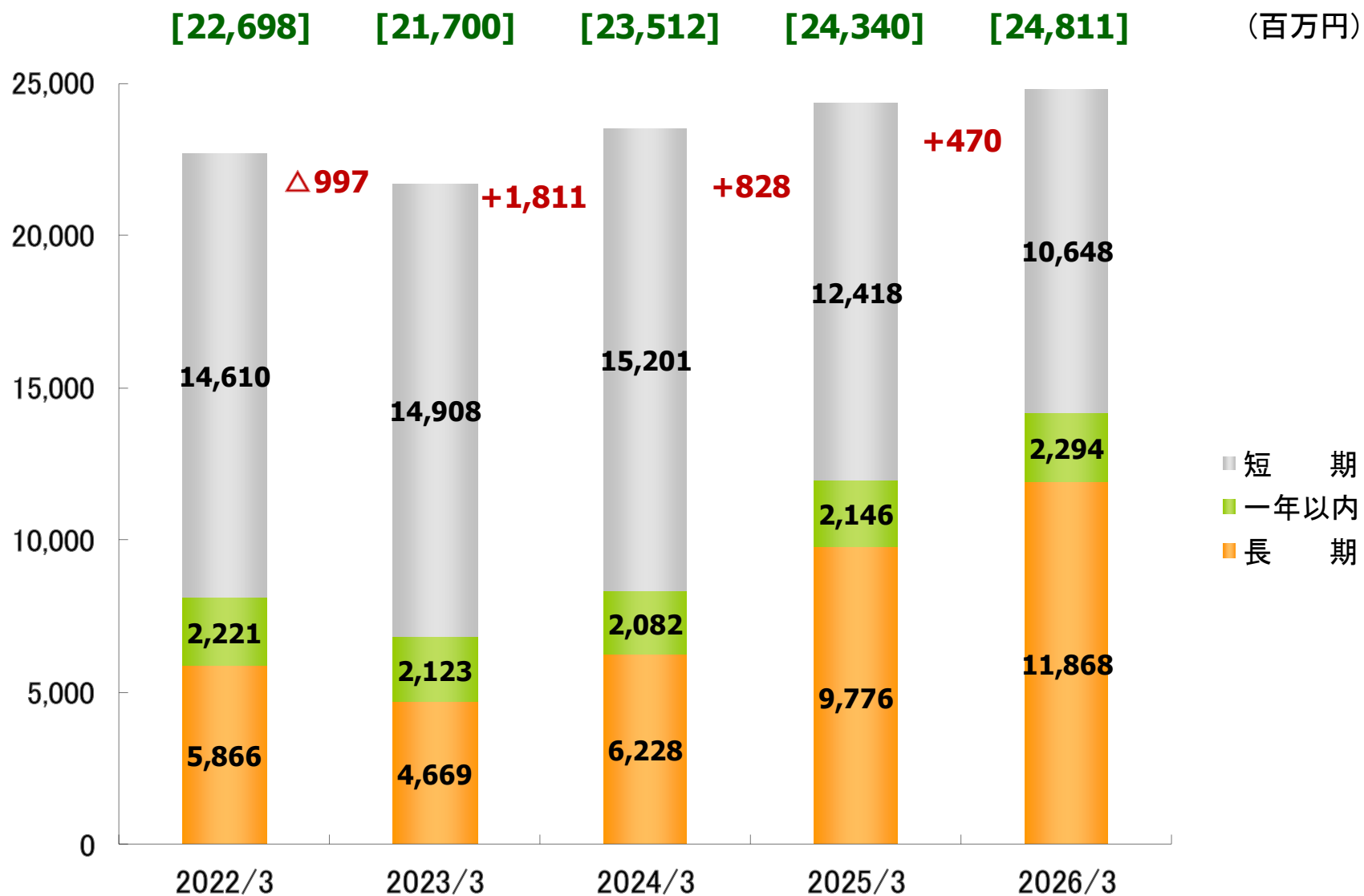
Ⅲ-5. 貸借対照表<負債・純資産>

[135,672] [143,038] [154,892] [159,446] [172,360]

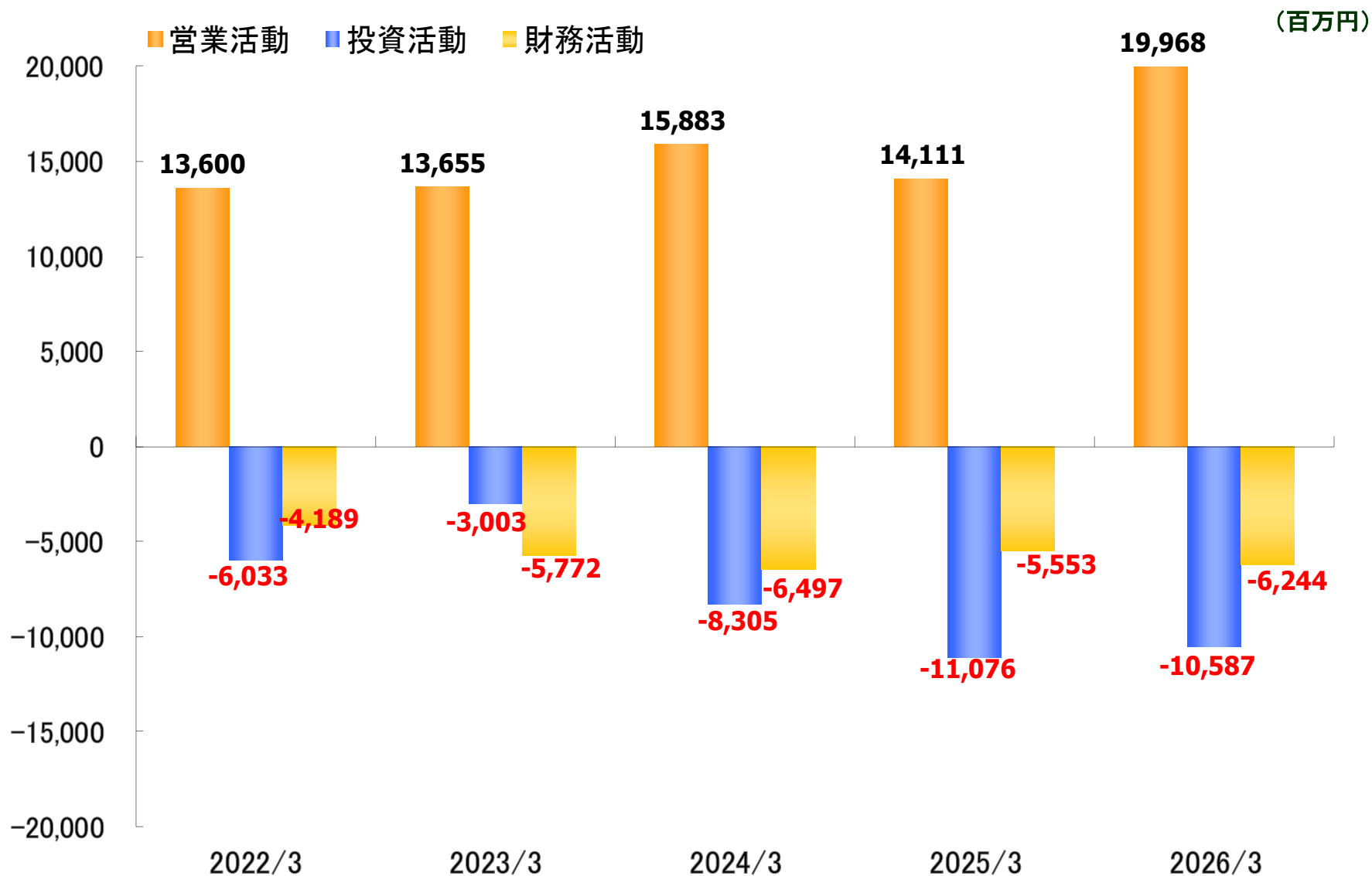
(連結:百万円)



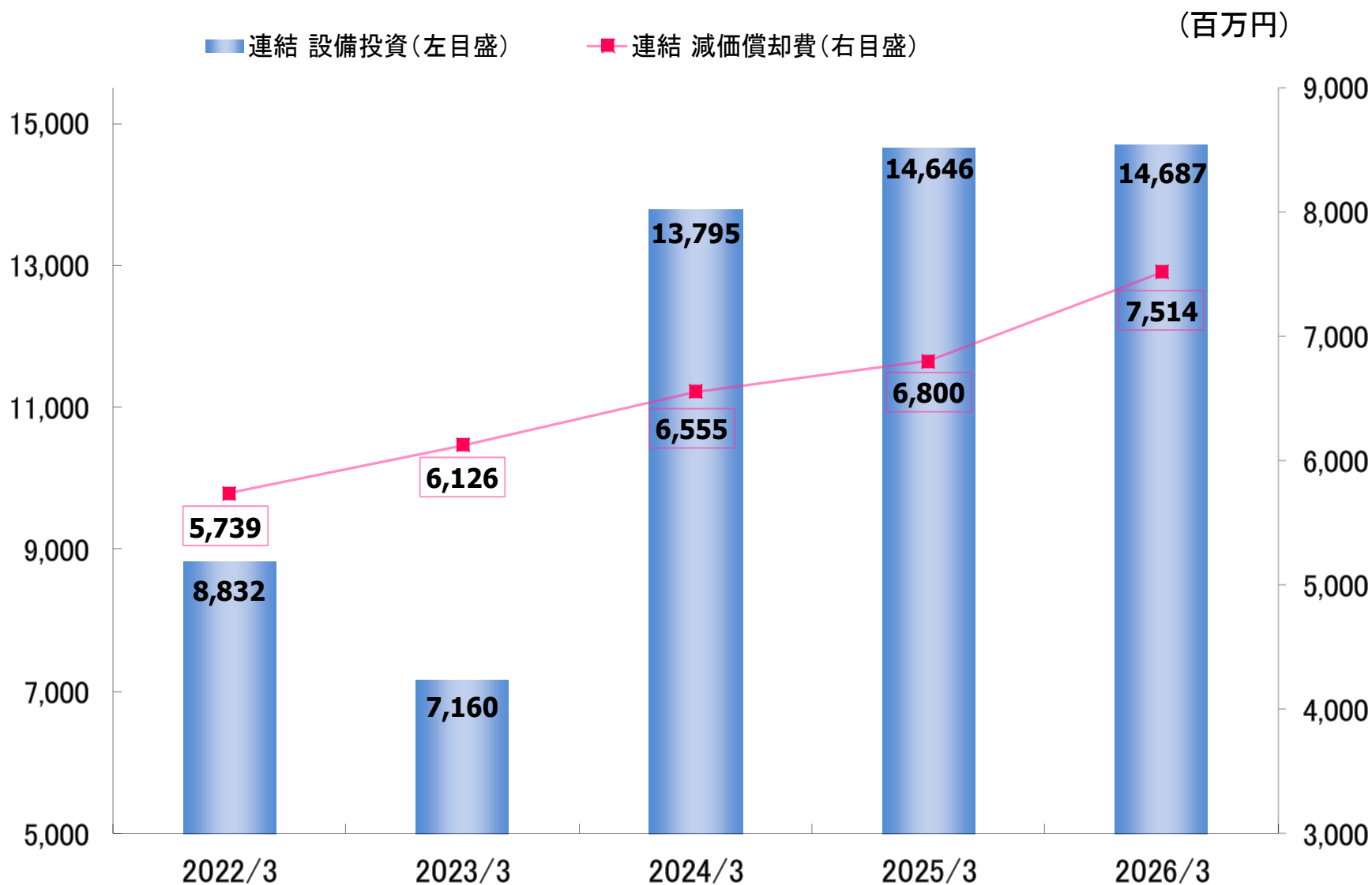
Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）



Ⅲ-7. キャッシュ・フロー



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況と 今後の戦略

IV-1. 近物レックス 2026年3月期業績

(百万円)

	実 績			
	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	前期比 (増減率)
営業収益	37,496	37,890	38,480	+589 (+1.6%)
営業利益	825	278	398	+119 (+43.0%)
経常利益	702	401	527	+126 (+31.6%)

IV-2. 近物レックス 業績推移

(百万円)

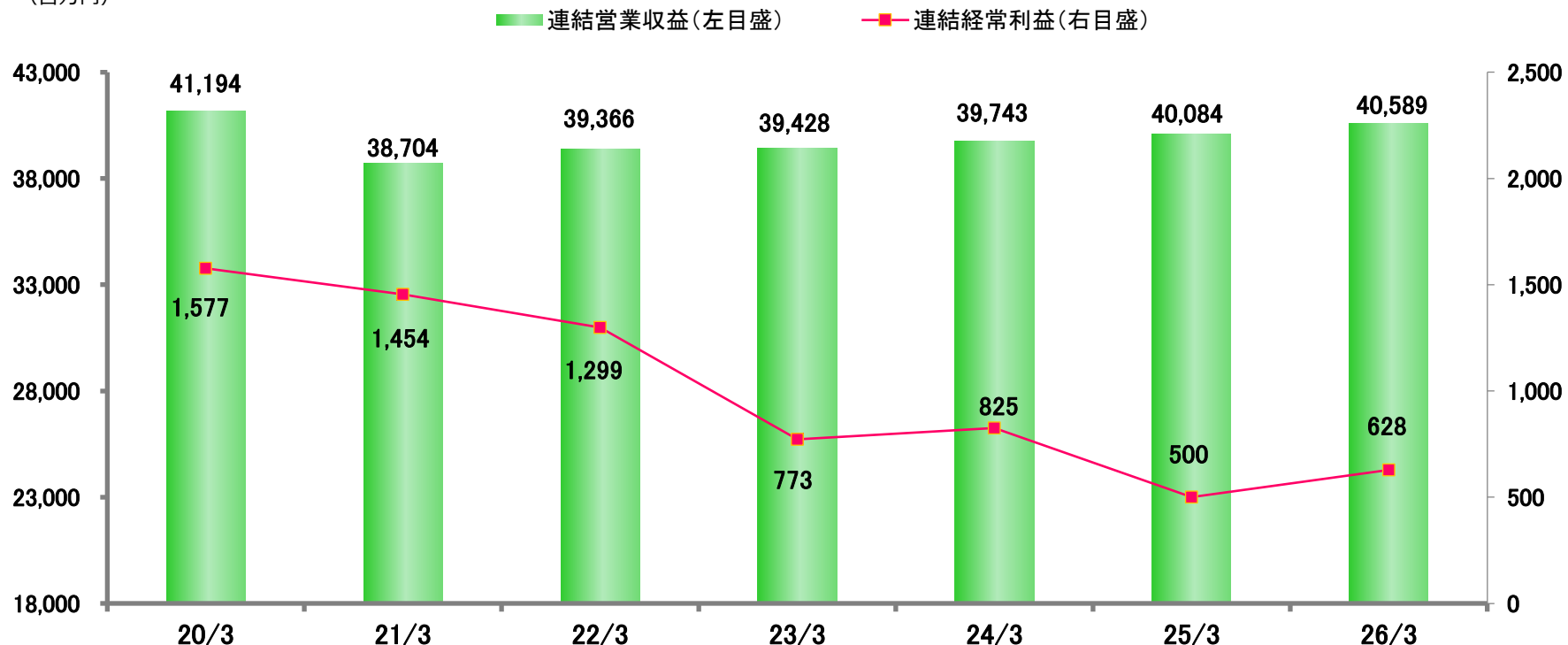
近物レックスグループ（連結子会社含む）

	近物レックスグループ（連結子会社含む）					
	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	増減額 (率)
営業収益	39,366	39,428	39,743	40,084	40,589	+506 (+1.3%)
営業利益	1,167	659	942	364	474	+109 (+30.0%)
経常利益	1,299	773	825	500	628	+127 (+25.4%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	884	497	545	330	411	+80 (+24.3%)

※近物レックスグループ：近物レックスの直接子会社を含めた連結数値となります。

IV-3. 近物レックス収益構造

(百万円)



	連結業績	個別業績
営業収益	増収	増収
営業利益	増益	増益
経常利益	増益	増益
当期純利益	増益	増益

IV-4. 近物レックスの2025年度成果

1. 収益性の向上

- ・ 貸切事業の拡大（陸上、海上）、スキマ時間による貸切業務のマッチング
- ・ 特積事業の運賃是正、庫内作業受託量の単価是正
- ・ 3PLの受託（飲料メーカー）
- ・ 非ハンドル職の雇用見直し計画。>生産性に応じた人員配置計画
→2026年度に向けた取り組み。
- ・ HMKグループとの連携強化



近年の特別積合事業（特積事業）について

特積事業は物量の微減傾向が続いており、同事業のみに依存することは経営上のリスクがあると判断しています。そのため、当社では新たな事業の柱として、貸切事業および3PL事業の拡大を経営方針に掲げています。

特積事業による貸切事業、3PL事業の拡大について

近物レックスの既存顧客約1万社のうち、貸切を取り扱う顧客は約3千社あります。さらに、「製造・保管・輸送委託」のプロセスを持つ顧客も約1千社あることから、特積事業の顧客基盤には、貸切事業や3PL事業へ展開できる余地が十分にあると考えています。

実際に2025年度においても、こうした既存顧客からの展開により、貸切事業および3PL事業の収入拡大につながりました。今後も、特積事業は重要な顧客接点として維持しながら、運賃是正や燃油サーチャージの導入を推進してまいります。あわせて、既存顧客との関係性を活かし、貸切事業・3PL事業のさらなる拡大を図ってまいります。

IV-5. 近物レックスの2025年度成果

2. 安全と法令遵守

- ・ 事故防止研修：安全意識の向上と危険エリアの確認
- ・ 内部監査室、適正事業部による社内監査の実施

4. 設備投資・その他

- ・ 設備投資（車両・事業所改修）
- ・ 借入返済

3. 雇用推進

- ・ 採用専任担当者を各ブロックに配備し、募集媒体に頼らないハローワーク主催の面接会を独自に開催し、ハンドル職の採用を強化した。
- ・ SNS開設（youtube インスタグラム TikTok）
- ・ 労働環境改善（夏季制服変更 施設修繕）



IV-6. 近物レックスの2026年度の取組み

1. 利益の追求

- ・貸切事業 : 自社車両を活用した貸切部門の輸送拡大。
グループ取引拡大
- ・倉庫事業 : 受託単価と庫内作業の見直し
- ・特積事業 : 運賃是正、燃油サーチャージ導入の交渉を行う。
- ・委託費 : 生産性を重視した人員配置と業務内容の見直しによる効率化
幹線便の再編(トレーラーの活用・週末便の見直し)
- ・生産性向上 : 非ハンドル職1名当り生産性を追求し、適正人員、適正時間を
設定し、労務費管理を行い、無駄をなくす



貸切専用車両

- ・貸切事業の拡大については、事業開発部を中心に案件を獲得して、各拠点において自社車両を活用した収入の拡大とグループとの取引拡大に取り組んでまいります。
- ・貸切収入増加額
- ・倉庫事業については、光熱費や庫内作業費など取扱量に見合った料金収受に向けた交渉を実施してまいります。
- ・特積事業については、中東情勢の影響を踏まえて、顧客との価格交渉及び燃料サーチャージの導入を進めてまいります。
- ・委託費の削減として、今まで仕分け作業や構内業務に従事していた所属員(業務員)もドライバー業務に携わることで、自車稼働を高め、集荷・配達の外注費用の抑制に取り組んでまいります。また、夜間の幹線便について、トレーラーの活用と週末の減便をすることで幹線コストを抑制してまいります。
- ・生産性の向上の取組みとして、仕分け業務に関わる適正人員、適正時間を設定し、非ハンドル職の1人1時間当りの目標取扱量を設定し、作業の効率化を進めています。

IV-7. 近物レックスの2026年度の取組み

2. 安全対策の強化



- ・ 安全意識向上を目的とした安全教育の実施
- ・ 危険予知エリアの指導
- ・ 対面、IT点呼時の交通法規と社内ルール伝達の徹底
- ・ 防災情報（各拠点エリアマップ）の浸透による防災意識の向上を図る。

4. 雇用確保



- ・ SNSの定期配信を活用したドライバーと整備士の確保
- ・ 職種毎の手当・賃金の見直し
- ・ 働きやすい職場認証の継続

3. 設備投資



- ・ 倉庫事業拡大のための施設増築
- ・ 車両代替の継続
- ・ 労働環境改善のための施設改修

5. コンプライアンス

- ・ 内部監査を通じ、各種法令の変更に柔軟に対応する。
- ・ ガバナンス強化を図る。
- ・ 各種セミナーの積極的な受講



V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取組んでおります。

V-2. 経営方針

物流の役割は駆伝でいえば最終ランナー、
地味ではあるが信頼された重要な存在。

当企業グループは信頼に応えて効率的な事業活動の展開と継続的で質の高い成長を図り、お客様第一、品質第一を基本に、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

また、短期的な収益にとらわれず、長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における質的内容の日本一を目指します。



会社概要（2026年3月31日現在）

- 社 名 株式会社ハマキョウレックス
(HAMAKYOREX CO., LTD.)
- 設 立 1971年2月
- 資 本 金 65億47百万円
- 決 算 期 3月31日
- 従 業 員 数 連結 6,010名
- 発 行 済 株 式 数 76,048,000株
- 株 主 数 6,531名
- 事 業 内 容 物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
- 連 結 子 会 社 39社
- 売 上 高 連結 1,555億00百万円
- 経 常 利 益 連結 160億80百万円

V-4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。

物流センター
事業（3PL）

(株)スーパーレックス
(株)ロジ・レックス
シュタープ(株)
千代田運輸(株)
(株)HMKロジサービス
(株)シティーライン
栄進急送(株)
マルコ物流(有)
東日本急行(株)
京阪久宝HD(株)
(株)サカイアゼットロジ
リケン(株)
(株)クラスター

他4社

貨物自動車
運送事業

高塚運送(株)
近物レックス(株)
東海乳菓運輸(株)
松本運送(株)
大浜運輸(株)
浜松興運(株)
千葉三港運輸(株)
藤栄運輸(株)
大一運送(株)
中神運送(株)
(株)山里物流サービス
石丸運輸(株)
(株)バンスポーツ

他9社

(株)ハマキョウ
レックス

V-5. 物流センター事業

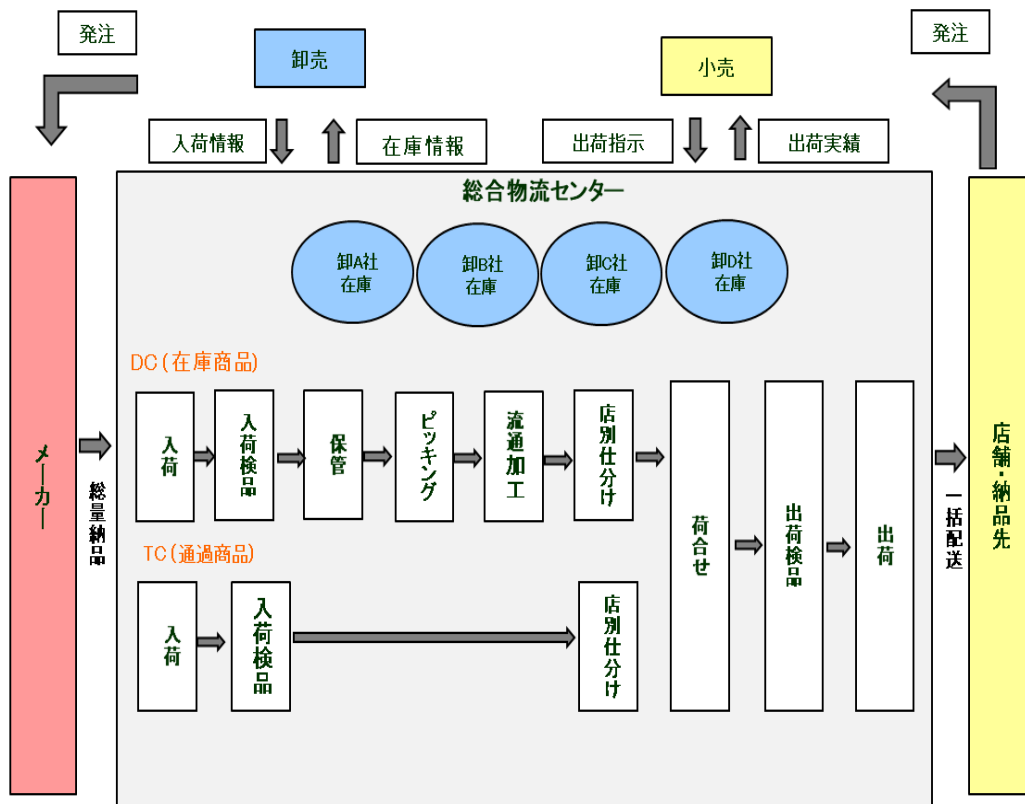
当社は3PL(3rd Party Logistics)をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。

物流センター事業例
～在庫保管型センター (DC) の場合～



コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支^{※1}**」・「**生産性向上**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

V-7. 拠点紹介

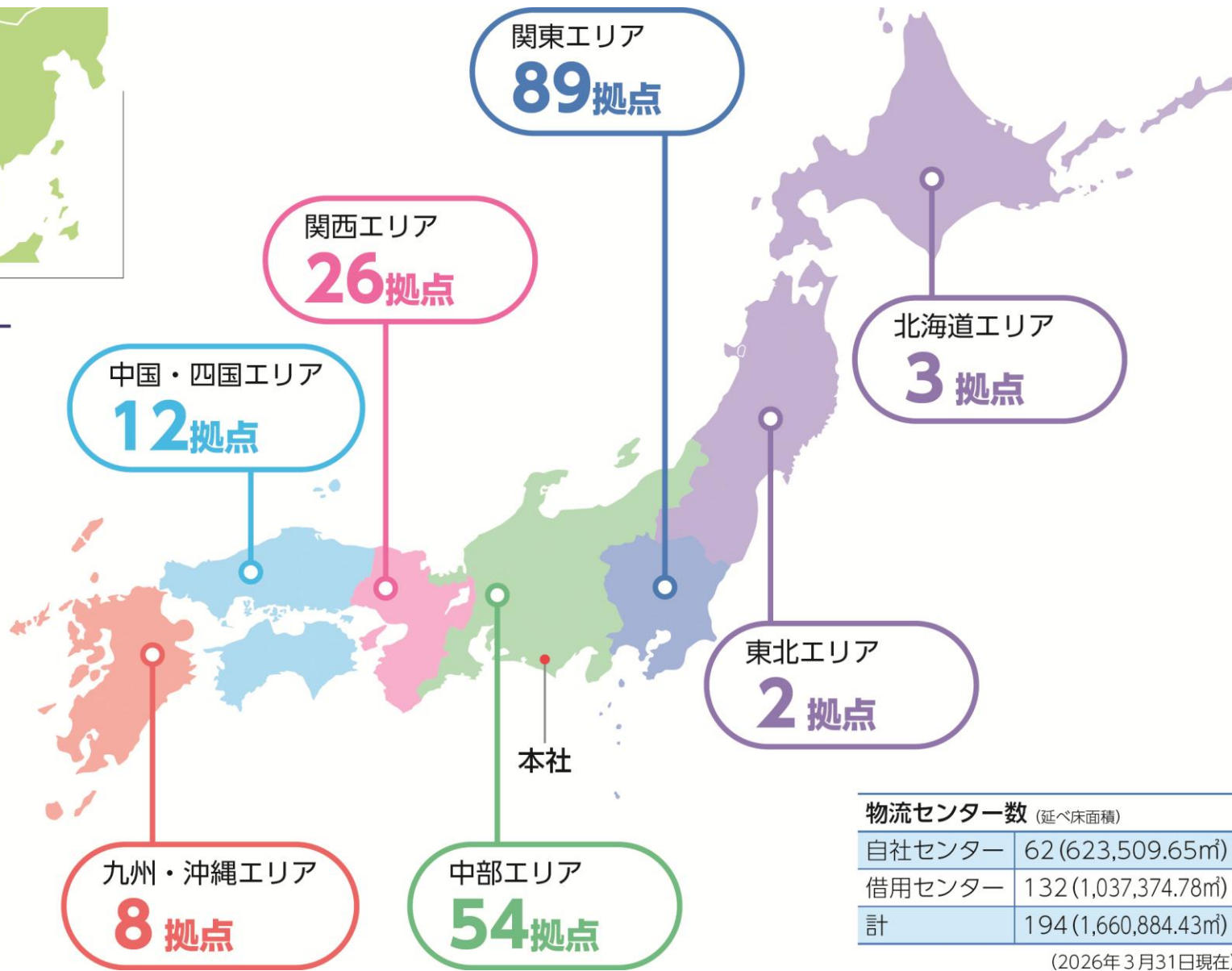


国内物流センター

194拠点

近物レックス配送拠点

104拠点



物流センター数 (延べ床面積)

自社センター	62 (623,509.65㎡)
借用センター	132 (1,037,374.78㎡)
計	194 (1,660,884.43㎡)

(2026年3月31日現在)

IR関係問合せ先・担当者

- 執行役員
管理本部長兼経営企画室長 竹内 義之
 - 経営企画室次長 河島 康男
- TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。